

1. 競技規則

本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。

なお、TR4.4（参加の拒否）、TR8.4/8.5（現場での抗議）は適用しない。

また、本大会はワールドランキングコンペティション（WRk）となる。そのため、TR4.3（同時申し込み）の国内適用はしない。

2. 競技者案内所（T I C）

競技者案内所（T I C）を競技場正面入口 1 階ロビーに置き、次の業務を行う。

- (1) 各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- (2) プログラム販売（1冊500円）。
- (3) 競技に持ち込んで使用する砲丸以外の投てき物の受付と返却。
- (4) 東海選手権大会受付

3. 競技者受付

- (1) 競技者受付は1日目(10日):16時30分／2日目(11日)3日目(12日):7時30分からT I Cにて行う。
- (2) 受付の細には、プログラムを配布する。
- (3) プログラムの記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）については、大会プログラム記載事項訂正申請書プログラム訂正用紙をTICへ提出する。

4. 招集

- (1) 本競技会では、招集は第4ゲートに設けた選手招集所で行う。
- (2) 各種目の招集開始および完了時刻は、プログラム競技日程記載のとおりとする。
- (3) 競技場所への入場は第4ゲート（100mスタート地点後方）のみとする。
- (4) 選手招集の際、係員により、アスリートビブスがついていることを確認した上で、商標・競技注意事項6(4)②に該当する持ち物等のチェックを行う。また、レーンで行わないトラック競技の腰ナンバー標識、5000m以上のトラック競技の胸ナンバー標識の配布を行う。
- (5) 代理人による招集は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集時に招集所備え付けの「2種目同時出場届」を競技者係に提出すること。届け出が完了すれば、第2種目の招集を事前に受けることができる。
- (6) 欠場する場合は、本人または代理人が必ず競技者係に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を棄権したものとみなす。
- (7) 競技場内への入退場は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行う。また、出場する選手以外は競技場内に入らないこと。
- (8) 棒高跳については、招集時に「アップライト申告書」を提出すること。

5. アスリートビブス

- (1) アスリートビブスは下記の通りとする。※安全ピンは各自持参
ふるさと登録競技者・県外の大学生：主催者で割り振り、大会受付で配布
一般競技者・県内の大学生：JAAF ID下4桁（アスリートビブス持参）
高校生：高体連登録番号（アスリートビブス持参）
中学生：中体連登録番頭（アスリートビブス持参）
そのままの大きさで、胸・背部に固定すること。ただし、跳躍種目の競技者については、どちらか一方でよい。（TR5.7/5.8/5.9）
- (2) トラック競技者（オープンレーンに限る）は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部やや後ろにつけること。このカードは競技者係（入場ゲート）で受け取り、フィニッシュ後は返却する必要はない。さらに5000m以上の競技者は、胸と背にレーンナンバー標識をつけること。ナンバー標識を受け取っただけでは、招集完了とならないので注意すること。

6. 競技方法

(1) トラック競技

- ① 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ② 本大会は参加標準を設けているが、トラック長距離種目において競技日程を著しく遅らせる可能性がある場合は、審判長の判断で競技を中止させることがある。
- ③ 競歩競技は、最終周回を前に、男子28分・女子32分を超えている競技者は競技中止とする。
- ④ リレーオーダー用紙は、招集完了の1時間前までに選手招集所の競技者係に提出すること。
- ⑤ リレー競走の競技者は、大きさが最大50mm×400mmの粘着テープ（マーカー）を1箇所、自身のレーン内に貼ることができる。マーカーは競技者が用意する。次走者のつけたマーカーは、走り終わった前走者が必ずはがすこと。

(2) フィールド競技

- ① フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ② 跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。ただし、走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に置くこととする。

- ③砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを 1 つだけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ④走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、優勝が決まって最後の 1 人となるまでは以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更することもある。

種 目	練習の高さ	1	2	3	4	5	6	7	
男子走高跳	* 1	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	2m03	・・・以後3cmずつ
女子走高跳	* 1	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	1m66	・・・以後3cmずつ
男子棒高跳	* 2	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	4m10	4m20	・・以後10cmずつ
女子棒高跳	* 2	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	3m10	3m20	・・以後10cmずつ

* 1 走高跳の練習の高さについては、3段階の高さを設定（審判員と競技者で協議して決定）する。

* 2 棒高跳の練習の高さについては、4段階の高さを設定（審判員と競技者で協議して決定）する中から、2つの高さを選ぶことができる。

* 3 第 1 位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

- ⑤三段跳の踏切板は男子12m、女子9mの地点に設置する。ただし、天候などの状況によって、変更する場合がある。
- ⑥ウォーミングアップ場での投てき練習は砲丸投のみとする。やり投・円盤投・ハンマー投の投てき練習は運動広場で行う。棒高跳については、会場入場時間から本競技場内で練習することができる。

(3)抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドがある場合は 15 分以内）に、その種目に出場した競技者自身または代理人が T I C まで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、 Jury に上訴することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金（2万円）を添え、T I C まで申し出ること。

(4)助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。（コーチング、トイレ等）
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③ コーチ等からの助言は競技場区域外（スタンド）のコーチングエリアのみとする。その際、撮影した機器を、提供する者のすぐ近くの位置で競技者が手に取って操作することは助力にはならないが、映像確認後にコーチ等に再生機器等を返さず、競技場所等へ持ち込む場合は助力とみなす。

7. 表彰

各種目の最上位者に長野県選手権章、および各種目8位までの入賞者に、賞状を授与する。係の指示に従い、表彰控え場所（役員室北側）に集合すること。

8. その他

- (1)競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポール、砲丸を除く投てき物は、個人所有のものを使用できる。（WA認証品のみ）砲丸を除く投てき物の持ち込み希望者は、招集完了時刻の 1 時間前までに T I C に持参し検査を受けること。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。なお、競技終了後に T I C で返却する。（TR32.2[国内]）。
- (2)スパイクピンの長さは9mm以内とし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
- (3)競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。
- (4)集団での応援は、芝生スタンドの競技運営に支障のない場所で行う。
- (5)スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。一眼レフカメラや望遠レンズ付きカメラでの撮影を認めない。また、撮影禁止エリア（ホームストレートスタート後方及びゴール前方）での撮影は一切できない。
- (6)ウォームアップ場（補助競技場）への監督・コーチの入場は認める。ただし、雨天走路への入場は、混雑が予想されるので、認めない。
- (7)競技場所からの退場は、第 1 ゲート（フィニッシュライン）後方のみとする。競技終了後、競技役員から指定された動線を通り退場すること。
- (8)結果発表後すぐに第69回東海選手権大会の申込を行う。（詳細は別紙「2026東海選手権申込方法参照」）
- (9)救護室は競技中の負傷・疾病に対しての応急処置を行うものとする。
- (10)地震、台風、雷、荒天や猛暑＜暑さ指数(WBGT)が31度以上の場合＞は、大会を一時中断・延期・または中止することがある。また競技順を入れ替える場合もある。